

<報告>

ICTを活用した医療的ケア児の子ども時代からの社会包摂・地域共生支援に関する研究

## Research on Social Inclusion and Community Symbiosis Support from Childhood for Medical Care Children Using ICT

山本 智子

YAMAMOTO Tomoko

本研究では、ICT（情報通信技術）を活用した医療的ケア児の子ども時代からの社会包摂および地域共生の支援に関して検討した。医療的ケア児者においてもICTを病気や障がいをもたない教育や学習の支援に活用するとともに、社会包摂および地域共生の子ども時代からの支援の観点から、人や社会とのつながり、考えや活動等の発信、さらに、キャリアや将来を豊かにするための支援にわたってICTを活用することが重視されることを指摘した。あわせて、それぞれの支援が実現されるために、子どもや教育を通して親しみやすいICTの活用の実際を示した。

キーワード：医療的ケア児、子ども時代、社会包摂、地域共生、ICT

著書：単著『医療的ケア児者を包摂する 教育支援とICT活用』

“Educational Support and ICT Utilization: Including Support for Students Needing Medical Care”

出版社：北樹出版

発行日：2023年1月31日

目次：

### 第1章 医療的ケア児の教育および支援とICTの活用

#### 第1節 特別支援教育とICT活用推進の動向

#### 第2節 学校教育におけるICT活用の実際

#### 第3節 障害のある子どもの教育および支援とICT活用の理解

### 第2章 教育および学習支援とICTの活用

#### 第1節 ICTを活用した基本的な学習支援技術・ツール

#### 第2節 特別なニーズに対応したICTの活用

### 第3章 教育および学習支援のためのICT活用における身体の動きの支援

#### 第1節 ICT活用に伴う身体の動きの支援にかかわるICT技術・ツール

#### 第2節 学校等におけるICT活用の実際

### 第4章 発声・表現を支援するICTの活用

#### 第1節 ICTを活用した発声・表現の支援

#### 第2節 ICT活用の実際

### 第5章 遊び・レクリエーションを支援するICTの活用

#### 第1節 ICTを活用した遊び・レクリエーション

#### 第2節 ICT活用の実際

## 第6章 人や社会とのつながりを支援する ICT の活用

第1節 ICTを活用した人や社会とのつながりを発展させる支援

第2節 ICTの活用の実際

## 第7章 考えや活動等の発信を支援する ICT の活用

第1節 ICTを活用した考えや活動等の発信

第2節 ICTの活用の実際

## 第8章 キャリアや将来を豊かにする支援と ICT の活用

第1節 ICTを活用したキャリアや生活の発展

第2節 ICTの活用の実際

第3節 ICTを活用した地域や社会の発展にかかわる支援

## 目的

本研究の目的は、ICT（情報通信技術）の活用を通して医療的ケア児の子ども時代からの社会包摂・地域共生の支援を発展させることにある。

これを実現するために、本書では、GIGA スクール構想や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、学校において推進されつつある ICT を、教育や学習支援（学習に活用される主なツール、教材、特別な支援に対応した活用）とともに、発声および表現（音や声、描画による表現等）、遊びやレクリエーション（音楽、動画、ゲーム、クイズ、バーチャルツアー等）、人や社会とのつながり（通話、チャット、オンライン会議、アンケート・リストの作成等）、考えや活動等の発信（表現および記録、SNS、動画、文章作成、Web Page 作成、国際交流等）、キャリアや将来を豊かにするための支援（コミュニケーション、自他の理解等）にわたって役立つための内容および方法に関して検討することを目的とした。

## 意義・考察

本研究の意義は、以下の構成や内容に基づいて、医療的ケア児に特化した ICT の活用の重要性を確認したうえで、学校における ICT の活用を教育や学習支援とあわせて、発声や表現といった病気や障がいにかかわる支援、遊びやレクリエーションといった生活におよぶ支援、そして、人や社会とのつながり、考えや活動等の発信、さらに、キャリアや将来を豊かにするための学校から学校卒業後にかかわる移行期を包摂した支援におよぶ検討を含めたことにあると考える。

また、学校での調査や実践をふまえ、活用する ICT の内容や方法を、学校教育において実際に実施されている事項を中心に取り扱うことにより、アクセスの確保の配慮に努めるよう心掛けた。具体的には、支援技術（Assistive Technology, AT）、拡大・代替コミュニケーション（Augmentative & Alternative Communication, AAT）をはじめ、ロイロノート・スクール（ロイロノート）、Google Jamboard、Kahoot!、Quizlet、Flip（Flipgrid）、Keynote、One Note、Microsoft Lens、iMovie、Google Sites、Workflowy 等の子どもたちや学校教育に親しみやすい活用例を挙げるように配慮した。

## 今後に向けての課題

本研究にかかわる別の調査等において、主に在宅での生活を中心とする医療的ケア児等では ICT を活用するためのデジタル環境が必ずしも確保されていないことが明らかにされた。このことをふまえ、環境の確保にかかわる探究とともに、デジタル・リテラシー等を含むより包括的な ICT 活用を支援する教育の内容や方法の検討、ならびに、学校卒業後も切れ目なくつなぐうえでの移行期の支援を発展させる検討に今後も引き続き取り組む

いと考えている。特に、移行期の支援の発展にあたって、学校教育と社会教育（生涯学習）との関係を中心とする制度および実践に関する探究を進めることを検討している。

この研究は2022年度国立音楽大学個人研究費（特別支給）の助成を受けました。